

知的障害特別支援学校におけるキャリア教育全体計画の

作成に向けた高等部の取り組み

— Y県A養護学校をモデルとして —

特別支援教育分野(17220916) 嶋村志朗

本研究は、勤務校である知的障害特別支援学校においてキャリア教育全体計画(高等部)の作成を試みた。既存の資料をキャリア発達に関連する諸能力の4領域8能力に基づき分類・整理した結果、新たな項目を追記することとなり、新規に加えた項目の妥当性を高等部の実践を通して示唆することができた。同様に、小学部、中学部での実践を通して勤務校におけるキャリア教育全体計画の完成版を目指していく。

[キーワード] キャリア教育全体計画, 4領域8能力, 知的障害特別支援学校, 高等部

1 問題と目的

現在の進路指導では、「キャリア」という用語が用いられることがある。「キャリア」とは、「生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」(文部科学省, 2011)と指摘されており、職業経歴や仕事そのものを意味する「ワークキャリア」と職業生活を含む様々な生活場面の個人が果たす役割を意味する「ライフキャリア」の2つの概念に分けて捉えられている。川崎(2007)は、キャリアといえば、より広義な意味として、ワークキャリアを含んだライフキャリアを指すのが一般的になっている。一方、国立特別支援教育総合研究所(2010)は、キャリア発達に関わる諸能力として「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」を挙げ、この4つの能力について『キャリア発達段階・内容表(試案)』(以下、試案とする)を示し、小学部、中学部、高等部において育成すべき能力を示した。全国の特別支援学校では、この試案を参考とし、キャリア教育に関わる実践に取り組んでいくこととなり、それぞれの学校独自のキャリア全体計画を作成し、各学部のキャリア教育の方針やねらいを策定し、教科横断的に様々な授業場面で指導を行っている。

筆者は、1年目の実践研究として特別支援学校中学部2年生の男子生徒を対象にキャリア発達に関わる諸能力の4領域の一つに挙げられている『人間関係形成能力』にかかわる「集団参加」に

視点をあてた実践を試みた。この実践は、対象生徒に身につけておく(確立されておくべき)力をキャリア教育の特定の部分に焦点を当てたものである。それは、キャリア教育に基づいて、対象生徒の所属する学部・所属する学年で求められる力に到達していない部分の力を獲得するための実践であった。この実践は、キャリア教育全体計画を見ながら計画を立案し実施した。今回、指導が結実したことで、当該学年で身につけるべき力に近づくことができ、キャリア教育の全体計画や指導の一貫性、系統性が重要であると考えることができた。研究成果としては、キャリア教育全体計画があることによって、キャリア教育の実践における指導の系統性や指導の順序性といった一覧があることはとても大切なことで連続性や系統立てた指導の有効性を確認することができた。

ところで、勤務校であるA養護学校では、キャリア教育全体計画という名称を用いずに、キャリア教育全体計画に類似したものとして「A養カリキュラム(指導内容系統表)」(以下、「A養カリキュラム」と示す)として、小学部から高等部までのキャリア教育を含めた指導計画を作成している。「A養カリキュラム」は指導全体のことを考えられているものであったため、プレゼンIの成果からはっきりと見やすい方が良く考え、キャリア教育の視点で分類・整理する必要があると考えた。一般的なキャリア教育全体計画は、高等部卒業時まで身につけておくべき力に到達させるために、中学部ではどのような力を習得させ、その中学部

での学習に向かうために小学部ではこういった力の習得が必要であるか、を一本の線上に系統立てて示している。「A 養カリキュラム」もそのような形式を取っているが、本研究ではライフキャリア、ワークキャリアともに関連が深く、学校教育の出口ともいえる高等部の部分から実践検証することで、中学部、小学部での実践検証につなげていき A 養護学校におけるキャリア教育全体計画の完成版を作り上げたいと考えた。まずは、「A 養カリキュラム」の高等部の部分を国立特別支援教育総合研究所が提示しているキャリア発達に関わる諸能力4領域8能力に基づき改めて分類・整理する。

(実践Ⅰ) 国立教育政策研究所(2002)によれば、キャリア発達に関わる諸能力4領域8能力とは、人間関係形成能力(他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・協働して物事に取り組む。)、情報活用能力(学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。)、将来設計能力(夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向き自己の将来を設計する。)、意思決定能力(自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。)の4つの領域と『人間関係形成能力』には「自他の理解能力」(自己理解を含め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力)、「コミュニケーション能力」(多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力)の2つの能力、『情報活用能力』には「情報収集・探索能力」(進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力)、「職業理解能力」(様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力)の2つの能力、『将来設計能力』には「役割把握・認識能力」(生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力)、「計画実行能力」(目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力)の2つの能力、『意思決定

能力』には「選択能力」(様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力)、「課題解決能力」(意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに希望する進路の実現に向け、自らの課題を設定してその解決に取り組む能力)の、それぞれ2つずつの能力を含んでいると説明されている。分類・整理した結果、空白の項目があれば、国立特別支援教育総合研究所の試案を参考に新たな項目を追記する。新規に加えた項目の妥当性を高等部の実践を通して検証したいと考えた。(実践Ⅱ)

本実践の目的は、高等部のキャリア教育に関する新たに追加する項目の妥当性を明らかにし、A 養護学校でのキャリア教育の指導をよりよいものにしていくことである。

2 実践Ⅰ

(1) 目的

A 養カリキュラム(高等部)の内容をキャリア発達に関わる諸能力の4領域8能力に分類する。

(2) 方法

① 対象

A 養カリキュラム

② 期間

20XX年4月

③ 手続き

1) 『人間関係形成能力』の分類

A 養カリキュラム(高等部)の項目から『人間関係形成能力』の項目を分類する。

2) 『情報活用能力』の分類

A 養カリキュラム(高等部)の項目から『情報活用能力』の項目を分類する。

3) 『将来設計能力』の分類

A 養カリキュラム(高等部)の項目から『将来設計能力』の項目を分類する。

4) 『意思決定能力』の分類

A 養カリキュラム(高等部)の項目から『意思決定能力』の項目を分類する。

5) 新たな項目の追記

空白の領域能力が出現した場合は、国立特別支援教育総合研究所の試案を参考に新たな項目を追記する。

(3) 結果

表 1 『人間関係形成能力』の分類

<p>A 養カリキュラム(高等部)の内容から <人との関わり> 学校内外での様々な人との関係(人の気持ちを思いやり, 助け合う関係)の構築を行う <集団との関係> 集団行動を確立(みんなと助け合っ活動)する の2つの項目を「自他の理解能力」に分類する。</p>
<p>A 養カリキュラム(高等部)の項目から <基本的な生活習慣・生活スキル> 基本的な生活習慣を確立する <言葉・数> 社会生活につながる言語能力の向上(場に応じた使い方)を図る <コミュニケーション> 様々な人とのコミュニケーション(場や状況に応じた話し方)ができる の3つの項目を「コミュニケーション能力」に分類する。</p>

表 2 『情報活用能力』の分類

<p>A 養カリキュラム(高等部)の項目から <基本的な生活習慣・生活スキル> 日常生活に必要な技能(生活スキル)を確立する <生活経験, 興味・関心> 生活経験, 周りの物への興味関心(社会生活へ)を持つ <言葉・数> 社会生活や経済生活における数量的処理能力の向上を図る の3つの項目を「情報収集・探索能力」に分類する</p>
<p>A 養カリキュラム(高等部)の項目から <社会生活につながる働く力> 実習や職場見学を通して, 働くことの意義や働く上で必要なことが分かる の項目を「職業理解能力」に分類する。</p>

表 3 『将来設計能力』の分類

<p>A 養カリキュラム(高等部)の項目から</p>

<p><基本的な生活習慣・生活スキル> 社会生活に必要なスキルを確立する の項目を「役割把握・認識能力」に分類する。</p>
<p>A 養カリキュラム(高等部)の項目から <余暇活動> 余暇につながる活動(趣味)の促進(深める, 広げる)を図る <健康の維持・体力の向上> 簡単なスポーツ(陸上運動, 器械運動, ダンス等)を通して, 健康の維持・体力の向上を図る の2つの項目を「計画実行能力」に分類する。</p>

表 4 『意思決定能力』の分類

<p>※A 養カリキュラム(高等部)の内容で、『意思決定能力』に該当する項目は見当たらなかった。</p>
--

(4) 考察

A 養カリキュラム(高等部)の内容で, キャリア発達に関する諸能力の一つ『意思決定能力』に該当する項目が見当たらなかった。そこで, 国立特別支援教育総合研究所の試案を参考にして『意思決定能力』の部分に加えたい項目を以下の二つとする。

表 5 『意思決定能力』(新しく追加)

<p>「課題解決能力」 <自己調整> 自分の課題を意識し, 解決するための方法を考え, 取り組む。</p>
<p>「選択能力」 <自己選択> 実習を通して, 将来やりたい仕事を選ぶことができる。</p>

新しい項目を追加したことで, 追加した項目の妥当性を検証する必要が出てきた。

3 実践Ⅱ

(1) 目的

実践Ⅰで得られた結果が妥当かどうか, 所属する A 養護学校高等部の生徒を対象生徒として実践

し検証することを目的とする。

(2) 方法

① 対象

対象生徒は2名で、自閉症の診断を受けA養護学校中学部から高等部に入學、S-M社会生活能力検査ではSAが38、卒業後の進路として生活介護の福祉事業所を考えている普段は教師が1対1で対応し学校生活を送っている生徒(以下、Cさん)、ADHDの診断を受け市内の中学校:知的障害学級から高等部に入學、S-M社会生活能力検査ではSAが134、卒業後の進路として一般企業への就労を目指している普段は言葉遣いが乱暴でよくトラブルを引き起こす生徒(以下Eさん)の2名である。

② 期間

20XX年12月中旬の期間。

③ 手続き

1) 朝の取り組み

朝、その日の目標(課題)を自分で考えたり、教師と一緒に考えたりして決める。決めている様子は、ICレコーダーに記録する。

2) 筆者がかかわれない授業

筆者がかかわれない授業中の様子は授業担当者に依頼しチェック用紙に対象生徒の様子を記入してもらう。

3) 振り返り

帰りの会の前に、朝決めた目標(課題)を頑張って生活することができたか自己評価する。自己評価している様子は、ICレコーダーに記録する。

4) 評価の比較

授業担当者のチェック用紙や一日の生活を通した評価を筆者も行い、生徒自身の評価と比較検討する。

④ 実践の概要

具体的な指導内容としては、朝の活動の時間に、その日一日を通して気をつける目標(課題)を自分で考えたり、教師と一緒に考えたりして決め学校生活を送り、帰りの会前に生徒自身と指導者で振り返りを行い、目標(課題)を意識した生活ができたかどうかの確認を行う。記録は、記録用紙や朝の活動の時間・帰りの会前の振り返りの時間のICレコーダーによる音声記録を行う。記録用紙は、朝の活動の時間に本人が一日を通して気をつける目標を記入し、帰りの会前の時間に目標を意識して生活できたかを記入する。実践時の記録用紙は、その1(図2)として一対象生徒が書き込む

記述式、その2(図3)として一対象生徒が選択肢(言語)から選ぶ選択式、その3(図1)として一対象生徒がイラストや写真から選ぶ写真式、の3種類を準備し対象生徒の実態に合わせて使用する。対象生徒が自分自身の課題を認識し、その課題を解決しようと取り組むことができたかを評価する。指導者がかかわれない授業中の様子(例:作業学習など)は、授業担当者に依頼し簡単なチェック用紙(図4)に対象生徒の様子を記入してもらう。

実践を通して自分自身の課題を認識し、その課題を解決しようと取り組めたかどうかを評価し、対象生徒にそのような変化が見られた場合、『意思決定能力』に関する項目として追加した、「課題解決能力:〈自己調整〉自分の課題を意識し、解決するための方法を考え取り組む」、の項目は妥当であると考ええる。

実践期間には、高等部卒業後の職業・進路の選択なども内容にふくまれる面談が組まれる。面談であったり、後期現場実習の評価を参考にしたりしながら自分自身の進路について考える時間を設定し、それらの活動の中に出てきた「言葉」(この事業所に行きたい、この仕事をしたい、など)を拾い整理することにより、『意思決定能力』として追加した「選択能力:〈自己選択〉実習を通して、将来やりたい仕事を選ぶことができる」、の項目の妥当性も検証する。

⑤ 記録と分析

ICレコーダーによる音声記録は、対象生徒の本実践への取り組みの様子(限られた時間での実践のため、指導者とのやり取りなど)を記録するためにいき、Cさんの落ち着かない様子、Eさんとの会話のやりとりなどを指導者が分析する。

⑥ 倫理的配慮

ICレコーダーによる授業の記録および分析結果の取り扱いについては、事前に保護者に対して文書と口頭説明を行い、同意書の提出によって同意を得た。



図1 記録用紙その3

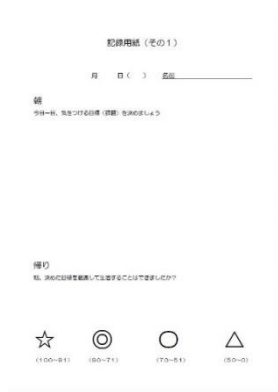


図2 記録用紙その1



図3 記録用紙その2



図4 チェック用紙

(3) 結果

Cさん

① 1回目の実践：12月11日

1) 朝の取り組み

実践初日ということもあり落ち着かない様子も見られたが、朝の活動の時間を使って一日を通して気をつける目標（課題）を考える・選択する活動に取り組む。記録用紙は、その3を使用して行った。2つの選択肢の平仮名を読み上げ、イラストを見て、授業者がどちらの選択肢を一日を通

して気をつける目標（課題）にするか尋ねると、「すわってべんきょう（かつどう）する」を選択した。

2) 振り返り

帰りの会の前の時間を使い振り返りとして、朝決めた目標（課題）を頑張って生活することはできたか？できたマーク（☆◎○△）に丸をつける活動に取り組む。

1回目の振り返りでは、△を選択した。

3) 筆者以外の教員の評価(作業学習)

チェック用紙の「朝、決めた目標(課題)を意識して活動することができていましたか？」の項目では、「ほぼできていた」の評価であった。

4) 筆者の評価

一日の生活を通しての評価は、○とした。

② 2回目の実践：12月12日

1) 朝の取り組み

実践2回目。朝の活動の時間を使って一日を通して気をつける目標（課題）を考える・選択する活動に取り組む。1回目と同様に記録用紙は、その3を使用して行った。2つの選択肢の平仮名を読み上げ、イラストを見て、授業者がどちらの選択肢を一日を通して気をつける目標（課題）にするか尋ねると、「すわってべんきょう（かつどう）する」を選択した。

2) 振り返り

帰りの会の前の時間を使い振り返りとして、朝決めた目標（課題）を頑張って生活することはできたか？できたマーク（☆◎○△）に丸をつける活動に取り組む。

2回目の振り返りでは、○を選択した。

3) 筆者以外の教員の評価(作業学習)

チェック用紙の「朝、決めた目標(課題)を意識して活動することができていましたか？」の項目では、「できていた」の評価であった。

4) 筆者の評価

一日の生活を通しての評価は、○とした。

③ 3回目の実践：12月13日

1) 朝の取り組み

実践3回目。朝の活動の時間を使って一日を通して気をつける目標（課題）を考える・選択する活動に取り組む。2回目と同じように記録用紙は、その3を使用して行った。2つの選択肢の平仮名を読み上げ、イラストを見て、授業者がどちらの選択肢を一日を通して気をつける目標（課題）に

するか尋ねると、「すわってべんきょう(かつどう)する」を選択した。

2) 振り返り

帰りの会の前の時間を使い振り返りとして、朝決めた目標(課題)を頑張って生活することはできたか?できたマーク(☆◎○△)に丸をつける活動に取り組む。

3回目の振り返りでは、○を選択した。

3) 筆者以外の教員の評価(作業学習)

チェック用紙の「朝、決めた目標(課題)を意識して活動することができていましたか?」の項目では、「できていた」の評価であった。

4) 筆者の評価

一日の生活を通しての評価は、○とした。

④ 1週目の振り返り: 12月14日

1回目、2回目、3回目の記録用紙や筆者以外の教員の評価:チェック用紙を提示し3回目までの取り組みの振り返りを試みたが、Cさんは興味を示さず、3日間行ってきた通常の取り組みで記録用紙を提示すると、自分から平仮名を読んだり、その日の目標(課題)として、どちらを選択するか尋ねたりすると「すわってべんきょう(かつどう)する」を選択した。本実践が定着してきた様子が見られ、来週も同じように実践を進めることをCさんに伝える。

Eさん

① 1回目の実践: 12月11日

1) 朝の取り組み

朝の活動の時間を使って一日を通して気をつける目標(課題)を考える活動に取り組む。記録用紙は、その1を使用して行った。どんな目標(課題)にするか悩んでいる様子が見られたが、「作業をしゅうちゅうしてがんばる」という目標(課題)に決定し、帰りの時間の振り返りで☆に丸をつけられるように何を頑張るか?という項目には、「時間をきにしないで、しゅうちゅうしてがんばる」と記入した。

2) 振り返り

帰りの会の前の時間を使い振り返りとして、朝決めた目標(課題)を頑張って生活することはできたか?できたマーク(☆◎○△)に丸をつける活動に取り組む。

初日の振り返りでは、自信満々に「これです」と言って☆に丸をつけた。

3) 筆者以外の教員の評価(作業学習)

チェック用紙の「朝、決めた目標(課題)を意識して活動することができていましたか?」の項目では、「できていた」の評価であった。

4) 筆者の評価

一日の生活を通しての評価は、☆とした。

② 2回目の実践: 12月12日

1) 朝の取り組み

朝の活動の時間を使って一日を通して気をつける目標(課題)を考える活動に取り組む。記録用紙は、その1を使用して行った。2回目も、どんな目標(課題)にするか悩んでいる様子が見られたが、「時間をまもる」という目標(課題)に決定し、帰りの時間の振り返りで☆に丸をつけられるように何を頑張るか?という項目には、「時間におくれないように活動する」と記入した。

2) 振り返り

帰りの会の前の時間を使い振り返りとして、朝決めた目標(課題)を頑張って生活することはできたか?できたマーク(☆◎○△)に丸をつける活動に取り組む。

2回目の振り返りでは、一度☆に丸をつけたが、◎に丸をつけ直した。授業者が確認すると、「今日は☆じゃなく、◎です。」と答えた。

3) 筆者以外の教員の評価(作業学習)

チェック用紙の「朝、決めた目標(課題)を意識して活動することができていましたか?」の項目では、「できていた」の評価であった。

4) 筆者の評価

一日の生活を通しての評価は、◎とした。

③ 3回目の実践: 12月13日

1) 朝の取り組み

朝の活動の時間を使って一日を通して気をつける目標(課題)を考える活動に取り組む。記録用紙は、その1を使用して行った。3回目も、どんな目標(課題)にするか悩んでいる様子が見られたが、「ことばづかいにきをつける」という目標(課題)に決定し、帰りの時間の振り返りで☆に丸をつけられるように何を頑張るか?という項目には、「人にらんぼうなことばをつかわない」と記入した。

2) 振り返り

帰りの会の前の時間を使い振り返りとして、朝決めた目標(課題)を頑張って生活することはできたか?できたマーク(☆◎○△)に丸をつける活動に取り組む。

3回目の振り返りでは、慎重に考えている様子が見られ、2日目と同じく◎を選択した。

3)筆者以外の教員の評価(作業学習)

チェック用紙の「朝、決めた目標(課題)を意識して活動することができていましたか?」の項目では、「できていた」の評価であった。

4)筆者の評価

一日の生活を通しての評価は、◎とした。

④1週目の振り返り:12月14日

12月14日から発熱で欠席。(その後、蜂窩織炎により市内の病院に9日間入院。)

1週目の振り返りを行うことはできなかった。

Cさん

⑤4回目の実践:12月17日

1)朝の取り組み

1週目同様に記録用紙のその3を使用して、一日を通して気をつける目標(課題)を考える・選択する活動に取り組む。2つの選択肢の平仮名を自分で読み上げ、イラストを見て、授業者がどちらの選択肢を一日を通して気をつける目標(課題)にするか尋ねると、「すわってべんきょう(かつどう)する」を選択した。

2)振り返り

帰りの会の前の時間を使い振り返りとして、朝決めた目標(課題)を頑張って生活することはできたか?できたマーク(☆◎○△)に丸をつける活動に取り組む。

4回目の振り返りでは、授業者が今日の取り組みはどうだったか尋ねると、○を選択した。

3)筆者以外の教員の評価(作業学習)

チェック用紙の「朝、決めた目標(課題)を意識して活動することができていましたか?」の項目では、「できていた」の評価であった。

4)筆者の評価

一日の生活を通しての評価は、○とした。

⑥5回目の実践:12月18日

1)朝の取り組み

4回目同様に記録用紙のその3を使用して、一日を通して気をつける目標(課題)を考える・選択する活動に取り組む。2つの選択肢の平仮名を自分で読み上げ、イラストを見て、授業者がどちらの選択肢を一日を通して気をつける目標(課題)にするか尋ねると、「すわってべんきょう(かつどう)する」を選択した。

2)振り返り

帰りの会の前の時間を使い振り返りとして、朝決めた目標(課題)を頑張って生活することはできたか?できたマーク(☆◎○△)に丸をつける活動に取り組む。

5回目の振り返りでは、授業者が今日の取り組みはどうだったか尋ねると、○を選択した。

3)筆者の評価

一日の生活を通しての評価は、○とした。

⑦6回目の実践:12月19日

1)朝の取り組み

5回目同様に記録用紙のその3を使用して、一日を通して気をつける目標(課題)を考える・選択する活動に取り組む。2つの選択肢の平仮名を自分で読み上げ、イラストを見て、授業者がどちらの選択肢を一日を通して気をつける目標(課題)にするか尋ねると、「すわってべんきょう(かつどう)する」を選択した。

2)振り返り

帰りの会の前の時間を使い振り返りとして、朝決めた目標(課題)を頑張って生活することはできたか?できたマーク(☆◎○△)に丸をつける活動に取り組む。

6回目の振り返りでは、授業者が今日の取り組みはどうだったか尋ねると、○を選択した。

3)筆者の評価

一日の生活を通しての評価は、○とした。

⑧2週目の振り返り:12月20日

1週目の振り返りと同様6日間行ってきた通常 of 取り組みで記録用紙を提示すると、平仮名を読んだり、その日の目標(課題)として、どちらを選択するか尋ねたりすると「すわってべんきょう(かつどう)する」を選択した。本実践が定着した様子が見られたが、今日でこの実践は終了することをCさんに伝えた。

実践Ⅱの期間には、高等部卒業後の職業・進路の選択なども内容にふくまれる面談が組まれていた。(Eさん12月14日、Cさん12月18日)『意思決定能力』として追加した「選択能力:<自己選択>実習を通して、将来やりたい仕事を選ぶことができる」、の項目の妥当性も検証するために、その面談であったり、後期現場実習の評価を参考にしたりしながら自分自身の進路について考える時間を設定する予定であったが、対象生徒の体調不良や入院により項目の妥当性を検証することは実践Ⅱ

の期間に行うことはできず、進路に関しては面談の場面において保護者との確認にとどまった。

(4) 考察

1週目の実践の結果から

①朝の取り組み

Cさんは3回の実践だけでなく4日目の振り返りでも、目標（課題）となるものを2つの選択肢の中から4回とも同じものを選択した。Eさんは3回の実践ごとに目標（課題）が異なる内容の物を自分自身で考えて決めることができた。対象生徒の2名とも自分なりに目標（課題）を意識して自分自身の取り組みといえる。

②振り返り

Cさん自身は、1回目：△，2回目：○，3回目：○を選択した。筆者以外の教員の評価としては、1回目：ほぼできていた，2回目：できていた，3回目：できていた，であった。筆者の評価としては1回目：○，2回目：○，3回目：○，であった。比較すると，1回目は少しばらつきがあるが，2回目・3回目の本人の評価と教員の評価が一致している。Eさん自身は，1回目：☆，2回目：◎，3回目：◎を選択した。筆者以外の教員の評価としては，1回目：できていた，2回目：できていた，3回目：できていた，であった。筆者の評価としては，1回目：☆，2回目：◎，3回目◎，であった。比較すると，本人の評価と教員の評価が一致している，と言える。

2週目の実践の結果から，

①朝の取り組み

Cさんは，3回の実践だけでなく8日目の振り返りでも，目標（課題）となるものを2つの選択肢の中から4回とも同じものを選択した。自分なりに目標（課題）を意識して取り組んでいるといえる。

②振り返り

Cさん自身は，4回目：○，5回目：○，6回目：○を選択した。筆者以外の教員の評価としては，6回目：できていた，であった。筆者の評価としては4回目：○，5回目：○，6回目：○，であった。比較すると，4回目・5回目・6回目の本人の評価と教員の評価が一致している。

以上のように，本実践の1週目の結果，2週目の結果から，A養護学校のキャリア教育全体計画（高等部）の作成にあたり，既存のA養カリキュ

ラムに欠けていて国立特別支援教育総合研究所（2010）の『キャリア発達段階・内容表（試案）』から『意思決定能力』に関する項目として追加した，「課題解決能力：〈自己調整〉自分の課題を意識し，解決するための方法を考え取り組む」の項目はA養護学校キャリア教育全体計画（高等部）の中に含まれることが妥当であることが示唆された。

4 今後の課題

本研究から勤務校であるA養護学校におけるキャリア教育全体計画（高等部）に新たに追記した項目の妥当性を示唆することができた。今後は，高等部だけでなく小学部，中学部でも同様の実践を通してA養護学校のキャリア教育全体計画の完成版を作り上げていくことが課題である。

5 謝辞

本研究にあたり，多くのご理解とご協力をいただいたCさん，Eさんとそのご家族，A養護学校の関係職員の皆様に心よりお礼申し上げます。

引用文献

- 川崎友嗣(2007)「キャリアとは何かーキャリア概念の今日的意味を考えるー」，『発達障害研究』，第29巻，第5号，302-309。
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2002)「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」。
- 国立特別支援教育総合研究所（2010）『知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究ー「キャリア発達段階・内容表（試案）」に基づく実践モデルの構築を目指してー』。
- 文部科学省(2011)「小学校におけるキャリア教育の手引き(改訂版)」，
<http://www.mext.go.jp/a-menu/shotou/career/1293933.htm>。(最終閲覧日2019年1月29日)

Efforts of Higher Division to Prepare Career Education Overall Plan at Mental Retardation Special Support School: Y Prefecture A School for the Disabled as a Model
Shiro SHIMAMURA